

## PA 法もしくは CLEIA 法で陽性となり WB 法で判定保留となった場合の対応

HTLV-I 抗体検査で陽性となった場合、Western blot 法で確認試験を行なうが、10～20%で判定保留が出現する。判定保留は以下の場合が該当する。

HTLV-I env gp46	HTLV-I gag		
	p19	p24	p53
—	+	+	+
—	+	+	—
—	+	—	+
—	—	+	+
—	+	—	—
—	—	+	—
—	—	—	+
+	—	—	—

WB を再検しても同様の結果となる事が多く、確定診断は困難である。現状では判定保留者の中に一部の HTLV-I キャリアが存在することは知られているが、その頻度は不明である。保険収載されていないが HTLV-I の PCR 法を行なうことは参考にはなるが絶対的なものではない。

(判定保留者への説明)

1. 検査の結果は判定保留であり HTLV-I キャリアとは断定できない。
2. 一部の症例で HTLV-I キャリアもいるが、全く感染していない人も含まれている。
3. 判定保留の人の中で、どのくらい HTLV-I キャリアがいるのかは現状では不明である。
4. 判定保留者の中に含まれる HTLV-I キャリアからの母乳を介した母子感染率については、現在のところデータがない。
5. 保険収載されていないが PCR 法を施行する方法もある。

WB 法	PCR 法	
判定保留	陽性	HTLV-I キャリアとして扱う
判定保留	陰性	完全に HTLV-I キャリアを否定できないが、キャリアでない可能性が高い。積極的に人工乳哺育を勧めるエビデンスはない。

